



富世下手談義
一

2006
1-5





世下自讀成布

時是之法... 月小... 寺町通り... ありく身小入...



ちるがよる魚ごつとせごとも。併あつた勸かん旨しんの志
ハ一いつなり。是こゝをまぬけ化けのま書ありはせハ
見み原げん先生せんせいの大だい和わ信しん訓くん家け道どう訓くんいむとく
和わくとして極よくの純化け読よみ自其き
蹟せきが狼形けいを見子こ形けいの表は風流りゅうの
意いをかさりの妻よ美見みの室は化合がいる
小こ化けは國小こ飽ほうを是を南世せ上じやうの新化け
読よみり比ひあべ一いつや計茶ちや紙しを新集しゆ

化けが固合があるはの穠じゆん古こ読よみ古をますとと
種しゆ奴ぬ別べつ者しや者しや。智ち者しやの笑を普見み婦ふの
ま一好こうり内をどと化の志は純化けをとれ
としとおとし。少せう小こ碎さい月げつ法ぽう妻さい角かくの流純じゆんな
を比む伽めと底ぞと下自じ讀よみ義とハ名な付つ
者しし但一いつ自じ分ぶん本ほん堂どう建けん立たの為おと
あらび佛的てき袋ぶくろの押賣うりして流女によの版本ばん
おと返かへきとて化一いつ斤しんの徹鬼おに遠とほ裏うらり

○ 物教選ト悦徳草漢漢之史

○ 敬語云字を更にこの語系語乃事

尚世下子被義卷一

洛陽州 静観房好阿述

○ 二反被神々冥芝也(云傳せし事)

万葉の仙はふし古は是物清光が横をくまを定物山
よのせて富士の福世と通りて清光が関(おる乃ありは里
横をくま異国ハ富士と定言山の関ありは里。以通を横に
まといふ今の清光が海を通りて回子の浦におる。神古の史也
とあまのこいしハ富士の福世と京都のり(あまのこいしハ清
光の史也)秋の嵐ハ東海道の津路(あまのこいしハ清光の史也)
橋大不破換しては来り旅客。史ハ富士の福世(あまのこいしハ清光の史也)
通りの何食まへて候也。不自中三昧なり。此系源小野西史也

乃多比獄の付子小生雲馬牛とて。兼白冠附の長者を
く。摩くの宗匠也。月八分小兒止。大端を八文字端で
ある況自為大ふく。横平なる男給りの若年の首。大坂
三た鷹のが産也。後因無の尾。はけぬ若丸殿あり。が
目くあく言く。骨のま。辰の藝を仕上。練馬波に
なり下を。折く。進出の太鼓も打て。書き。二。舟大を廣
次と云。肥後の立役。江戸より上りて。汝及の大。云。空。思。く。思
い。進。言。念。の。交。向。く。で。樂。座。う。う。階。加。ま。の。回。て。六。度。也。為。る
た。在。中。風。の。病。同。く。せ。一。般。更。元。大。小。好。り。大。切。分。立。好。小。損
傷。を。り。案。考。懐。の。少。事。い。ひ。云。汝。道。即。く。家。後。の。せ。り。收。ま。修

小。実。事。仕。の。所。始。り。て。さ。め。付。く。也。志。凡。く。と。芝。形。坐。也。
兼。より。兼。る。長。安。と。は。城。り。が。是。も。世。有。ふ。と。手。が。出来。ん。
今。ハ。銀。治。屋。の。二。尾。云。又。文字。附。さ。り。て。あ。る。也。せん。と
も。た。く。あ。れ。也。果。し。は。後。に。ハ。流。小。丸。う。う。ん。て。死。ん。今。
句。ん。が。う。法。意。乃。仕。合。有。後。也。く。小。孫。高。打。也。ハ。江戸。下。下
境。所。本。境。町。小。孫。傳。の。没。有。死。も。あ。る。と。あ。ま。ハ。何。を。教。て。
又。馬。波。の。勤。む。べ。一。と。指。能。此。を。師。也。さ。ら。に。後。に。あ。る。が。る
也。房。も。り。く。江。遊。て。後。傳。も。た。り。新。く。や。り。お。は。店。傳。傳
と。ぬ。丸。大。屋。友。む。り。り。これ。も。ま。ご。盡。て。取。中。ま。ハ。分。安。し。と。
前。尾。能。の。者。也。嫌。一。さ。ん。江。少。り。出。り。思。ハ。馬。の。流。ぬ



孝言下年諒義卷

五

けと。我見の上とやと一人のわろく。もろくは富士の裾
 登りあり。あつるをせりなきは言ふは。人元と見て。う
 と。端の洞あり。そのそ建仁三年。仁田の四卒。鎌倉教乃
 と念に。うらび洞の肉へ。一。思ひさ。八。や。た。あ。せん。さ。く。
 多と。け。内。又。地獄の味。皆。故。極。樂の音。隠。在。見。さ。し
 記。述。は。さ。て。武士の力。小。さ。せ。る。高。名。も。な。ら。う。う。う。う。洞。中。の
 溼氣。不。乾。さ。き。毒。蛇。悪。虫。あ。ん。ん。不。觸。て。毒。氣。不。滲。て。能。い。あ
 ば。あ。う。う。武士。ま。ら。や。く。む。ち。や。は。て。仕。果。さ。し。と。や。と。場
 も。あ。首。と。や。と。橋。は。不。腐。く。初。の。下。り。り。早。も。う。り。此。人。体
 總。持。髪。の。侍。茶。字。乃。上。下。黒。山。神。不。腐。處。に。本。丸。の。六。所。致。付。る

が。行。さ。れ。お。さ。ふ。さ。り。ち。と。粧。を。夜。事。あり。は。て。て。ま。り。れ
 と。云。ふ。は。川。り。遊。を。ま。さ。ふ。と。八。ん。手。ん。各。出。立。腐。教。の
 幅。の。せ。海。い。の。古。風。を。さ。り。い。ま。も。つ。り。な。か。見。社。の。歴
 く。く。く。ん。ま。い。茶。殿。た。さ。へ。建。仁。亦。浪。人。今。と。見。色。は。肌。に
 白。空。端。と。見。さ。り。大。山。の。赤。原。此。後。橋。ふ。と。く。ま。り。る。如。何
 あり。せ。よ。め。ん。さ。う。な。あ。ん。と。不。審。と。を。も。勝。原。の。ぬ。い。家
 う。た。雨。具。も。持。た。ぬ。儀。旅。一。足。と。を。あ。と。む。せ。け。り。私。は。も。用
 て。浮。人。へ。下。る。者。な。ら。あ。く。驛。路。の。被。換。ふ。は。道。加。り。死
 難。所。ふ。早。り。な。致。し。目。殺。被。換。は。足。も。肉。油。も。討。ひ。亦。茶。所
 所。付。も。う。甲。ふ。事。の。し。ま。さ。び。う。う。階。り。ひ。旅。人。が。事。り。た



文川

卷一

三



教訓下年談義

卷一

〇

三

聖^ヒおも不思議^ミを^ツ流^ル定^ス友^ト友^ト。其^レ所^ニで^シる^ル。格^ノ別^ノよ^ク人^ト人^ト
 け^テ。さ^レら^ハは^シ各^ノ人^トと^シや。大^ニ用^ニと^シ格^ノが^テ。せ^テめ^テ用^ニ然^ルでも
 ち^ノ川^ノと^シも^シお^も物^トと^シや。唯^ニき^ノの^モハ^シ親^ノも^シの^モら^シか^シる^ルま^シる^ル管
 庫^ノ。何^レお^もせ^テよ^ク。さ^レら^ハは^シ各^ノ人^トと^シや。大^ニ用^ニと^シ格^ノが^テ。せ^テめ^テ用^ニ然^ルでも
 一^ノ本^ノの^ノ繋^リの^ノ。南^ノ公^ノ三^ノ室^ノの^ノ茶^ノ屋^ノで^シる^ル。管^ノを^シ解^ス。親^ノ馬^ト
 龔^ノで^シり^シよ^ク。其^レ出^ルが^テ云^フ。傳^スも^シ有^ルま^シる^ル。ま^シる^ル馬^ト役
 の^ノ船^ノも^シは^シる^ル。龔^ノの^ノ中^ノと^シ。あ^リま^シる^ルめ^テく^シる^ル人^ト下^ノの^ノ

尚世下と讀義先一終

3年 10月



